

国語 第3学年 登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしょうかいしよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の第3学年下巻に採録されている朝鮮半島の民話（李錦玉の文）。光村図書 令和6年度版の年間指導計画例では12月・6時間（読むこと6時間）。ほかの会社の教科書への採録はこちらで確かめていないので、使う教科書の目次で確かめる。場面の分け方は、使う教科書の本文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、物語を読む時に、登場人物の行動や様子を表す言葉を見つけ、その言葉を根拠にしてその時の気持ちを説明できる。「三年とうげ」では、おじいさんの気持ちが、転ぶ前・転んだ後・トルトリ話を聞いた後でどう変わったかを、行動や様子を表す言葉を挙げて言える。さらに、出来事のおもしろさ、登場人物の行動や考え方、言葉の調子やくり返しといった観点で民話のおもしろさを見つけ、自分で選んだ民話を、本文の言葉を正しく引用し、書名と作者を示して友達に紹介できる。友達の紹介を聞いて、次に読みたい本を見つけることも目指す。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(10)	(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りが無いよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)コ	コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

単元の目標

引用の仕方や出典の示し方を知って使い、幅広く読書に親しみ、読書に必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く（(2)イ・(3)オ）。登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、読んで分かったことから感想や考えをもつ（C(1)イ・オ）。民話のおもしろさを見つけて友達に紹介し、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①引用の仕方や出典の示し方を理解し使っている。(2)イ) ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ)	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、選んだ民話を紹介しようとしている。

単元の流れ

全6時間。光村図書 令和6年度版「国語」の年間指導計画例（第3学年）で、この単元は12月・6時間（読むこと6時間）。国語の標準授業時数は第3学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。年間指導計画に合わせて増減する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○これまでに読んだ民話や昔話を思い出し、おもしろかった所を伝え合う。 ○範読を聞いて初めの感想を書き、「えらんだ民話をしょうかいしよう」という学習の見通しをもつ。 ○学校図書館で民話の本を探し、並行読書を始める。	態①（行動観察・ノート）
第2次	2	○時・場所・登場人物・出来事を確かめ、物語を出来事の順に大きく分ける。 ○おじいさんが出来事ごとに何をしたかを、短い文で表にまとめる。	思①（ノート）
	3 (本時)	○おじいさんの行動や様子を表す言葉に線を引き、転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後で、おじいさんの気持ちがどう変わったかを叙述を基に考える。	思①（ノート・発言）《記録》
	4	○「三年とうげ」のおもしろいところを、出来事、登場人物の行動や考え方、言葉の調子やくり返し、の三つの観点から見つけ、本文の言葉を引用してノートに書く。	知①・思②（ノート）
第3次	5	○自分で選んだ民話を読み、登場人物の行動や気持ちと、おもしろいところを、引用しながら紹介カードに書く。書名と作者も書く。	知①・思②（紹介カード）《記録》
	6	○紹介カードを読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返り、民話を読んで知ったこと（その国や地域の暮らし・言葉など）を出し合う。	知②（振り返り・読書の記録） 態①（振り返り・行動観察）《記録》

本時の案

本時の目標：おじいさんの行動や様子を表す言葉を基に、転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後のおじいさんの気持ちを捉え、気持ちが変わったわけを説明できる。(C(1)イ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時にまとめた表で、物語の出来事の順を確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「おじいさんの気持ちは、物語の中でずっと同じでしょうか」 【めあて】おじいさんの行動や様子を表す言葉から、おじいさんの気持ちの変わり方をとらえよう。 3 全文を音読する。 〈予想される児童の反応〉 ・転んだ時は、こわかったと思う。 ・最後は元気になったから、うれしい気持ちになった。	・前時の表を黒板に貼り、おじいさんの気持ちの欄は空けておく。 ・音読の間、おじいさんがしたことが書いてある所に指を置いて読ませる。



段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	4 一人で読み、おじいさんの行動や様子を表す言葉に線を引く。 ○「おじいさんがしたことや、おじいさんの様子が分かる言葉はどれですか」 5 線を引いた言葉から、その時のおじいさんの気持ちを考え、表の三つの欄（転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後）に書く。 ○「その言葉から、おじいさんのどんな気持ちが分かりますか」 6 ペアで、表に書いた気持ちと、その元になった言葉を伝え合う。 7 全体で話し合い、気持ちがいちばん変わったところと、そのわけを考える。 ○「おじいさんの気持ちが大きく変わったのは、どこですか。どうして変わったのですか」 〈予想される児童の反応〉 ・転ぶ前は、峠を通過して家に帰るところだった。 ・転んだ後は、とてもこわがった。家に帰ると、寝込んで病気になった。 ・トルトリの話を聞いた後は、もう一度峠へ行き、自分から何度も転んだ。 ・転ぶ前：早く家に帰りたい、いつもどおり。 ・転んだ後：こわい、もうだめだ、悲しい。 ・トルトリの話を聞いた後：安心した、うれしい、元気が出た。 ・トルトリの話を聞いた所で、気持ちががらりと変わった。 ・転べば転ぶほど長生きできると気付いたから。 ・言い伝えは同じなのに、考え方を変えたら気持ちも変わった。	・気持ちを考える前に、必ず行動や様子を表す言葉を確認する。 ・線が引けない子には、先生が一か所だけ示し、その先は自分で引かせる。 ・「こわい」「うれしい」など一語で終わる発言には「どの言葉から」と返し、本文の言葉を指させる。 ・気持ちを表す言葉が思い浮かばない子には、気持ちを表す言葉の一覧（こわい・心配・がっかり・ほっとする・うれしいなど）を手元に置かせる。 ・トルトリの話の所では、トルトリがどう考えたかを先に確かめ、それを聞いたおじいさんの行動に目を向けさせる。 ・早く終わった子には「トルトリの話のどこを聞いて、おじいさんの気持ちが変わったか」を考えさせる。 ・反応の欄の行動は要約で示している。 線を引く叙述や台詞は、使う教科書から先生が書き入れる。
まとめ (分)	8 おじいさんの気持ちの変わり方を、ノートにまとめる。 (型)「おじいさんは、はじめ…という気持ちだった。転んだ後は、…という言葉から、…という気持ちだと分かる。トルトリの話を聞いた後は、…という言葉から、…という気持ちに変わった。わけは…」 9 二、三人が読み上げ、同じ所とちがう所を確認する。 10 振り返りを書く。	・振り返りは「言葉から分かったこと」と「友達の考えを聞いて、なるほどと思ったこと」の二つで書かせる。 ・次時は「三年とうげ」のおもしろいところを見つけることを伝え、本時の表をその手がかりにする。 ◎思① 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(ノート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付・題名・めあて。その左に、前時の表（出来事の順に、転ぶ前・転んだ後・トルトリの話を聞いた後の三つの欄を右から左へ並べる）。中央に、三つの欄ごとに、上の段におじいさんの行動や様子を表す言葉（叙述は先生が教科書から書き入れる）、下の段にその時の気持ちを書き、欄と欄の間を矢印でつなぐ。トルトリの話を聞いた所の矢印は太くして、気持ちが変わったわけを書き添える。その左に、子どもの考えのちがい（うれしい・ほっとした・元気が出た など）と、根拠の言葉。左端に、まとめの文の型と振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、気持ちを「こわい」「うれしい」の一語で済ませ、どの言葉からそう考えたかが言えない。手当ては、行動や様子の言葉に線を引いてから気持ちを書く順を、毎時間崩さないこと（C(1)イ）。二つ目、挿絵や自分の想像だけで気持ちを言う。手当ては、「その言葉は本文のどこにあるか」を指させ、指せない考えは言葉を探し直させること。三つ目、トルトリの考えの意味が分からず、おじいさんがなぜ元気になったのかが言えない。手当ては、転んだ回数と生きられる年数を表にして確かめること。四つ目、引用する時に、本文の言葉を自分の言葉に変えて書いたり、かぎを付けずに書いたりする。手当ては、引用は本文の言葉のとおりにかぎ（「」）を付けて書き、書名と作者を添える決まりを、紹介カードの枠に書いておくこと（(2)イ）。五つ目、民話を選べない、または読み切れない。手当ては、単元の始めから、学校司書がいれば協力して、短い民話の本を教室に並べ、読んだ本を書きためる読書カードを使うこと（(3)オ、第3の2(3)）。

プリントの案

おじいさんの気持ちの表（本時）

縦書きで、右から左へ「転ぶ前」「転んだ後」「トルトリの話を聞いた後」の三つの欄を並べる。各欄の上の段に「行動や様子を表す言葉（書き写す）」、下の段に「その時の気持ち」。欄と欄の間に矢印を印刷し、気持ちが変わったきっかけを書き込む。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。C(1)イを表の形にしたもの。

おもしろさ見つけカード

「出来事のおもしろさ」「登場人物の行動や考え方」「言葉の調子やくり返し」の三つの枠を並べ、それぞれに「本文の言葉（かぎを付けて書き写す）」と「おもしろいと思ったわけ」を書く。「三年とうげ」と、自分が選んだ民話の両方で使う。C(1)オと(2)イに合わせた。

民話しょうかいカード

上に書名・作者（または再話した人）・どこの国や地域の話か、を書く欄。その下に「どんな話か（短く）」「登場人物の行動や気持ち（引用する）」「いちばんおもしろいところ（引用する）とわけ」「この本をすすめたい人」の四つの枠。引用はかぎを付けて本文のとおりを書く決まりを、枠の外に印刷しておく。(2)イとC(1)イ・オの評価資料にできる。

民話の読書カード

読んだ民話の題名、どこの国や地域の話か、読んだ日、一言の感想、友達にすすめたいか（○・△）を書きためる表。単元の後も続けて使い、民話を読んで知ったこと（暮らし・食べ物・言葉など）を書く欄を下に付ける。(3)オに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、第3学年及び第4学年C読むことの評価規準（例）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第3学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書 令和6年度版 小学校国語 年間指導計画例（第3学年、Excel）。単元名・教材名・12月・配当6時間（読むこと6時間）・指導目標の項目の出典。学習活動の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／光村図書 小学校国語 年間指導計画の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

